

完成の頃には胚乳は殆んどなくなる。

胚形成のごく初期に、胚柄のよく発達した多細胞の塊ができ、その先端に胚の本体が分化してくる。かなりしばしば、この集塊の先が2分し、2つの胚が発達するのがみられる。しかし一方のみが生育して2つが同様に發育することはないようである。このような胚形成は裸子植物の前胚形成にやや類似した行動である点に大きな特徴がある。しかし胚本体の分化は *Chenopodiad Type* で、エゴノキ科の胚形成と基本的には同じである。原根層の分化はエゴノキ科やハイノキ科にくらべると不明瞭である。上記のように胚乳形成、胚形成はアカテツ科はハイノキ科やエゴノキ科とはかなり異っている。

○*Pseudopohlia bulbifera* の学名について (水島うらら) Urara Mizushima: On the nomenclature of *Pseudopohlia bulbifera* sensu Ochi

本誌 4 月号に越智春美氏が書いておられるセン類覚えがき (VIII) を拝見し、117 頁にある *Pseudopohlia bulbifera* (1914) の有効性に疑問を抱いた。氏はフィリッピンから記載されたこの種と雲南産の *P. yunnanensis* (1925) とは全く同一のものであることを述べられ、インド・ネパール地方産の *Brachymenium microstomum* も多くの標本を見た結果、矢張りこれも前2者と同一であると述べておられる。然しこれら3者を合一するに当り、越智氏は *P. bulbifera* Williams を正名とされた。ところが異名と見做された *Brachymenium microstomum* Harv. (1836) は筆者が調べた限りでは有効名である。従って上記3者を同一種と見る限り、また *Pseudopohlia* 属のものと見る限り、その正名は *Brachymenium microstomum* Harv. を組み換えた *Pseudopohlia microstoma* (Harv.) U. Mizushima でなければならないと思う。

***Pseudopohlia microstoma* (Harv.) U. Mizushima, comb. nov.**

—*Brachymenium microstomum* Harv. in Hooker, Icon. Pl. 1: tab. 19, f. 4 (1836)—*Pseudopohlia bulbifera* Williams in Bull. New York Bot. Gard. 8: 346, 172 (1914); Ochi in Journ. Jap. Bot. 46: 117, f. 50 (1971)—*P. yunnanensis* Herz. in Hedwigia 65: 157, 4 (1925).

蛇足であるが *Brachymenium microstomum* Harv. という名は Musci Indici として載せられている Harvey の図版の中にある。同巻中の種子植物では記載文があるが、セン類については“Companion to the Botanical Magazine”の Vol. 2 に記文を載せる筈である(第17図版の註)と書かれているだけで記文はない。Comp. Bot. Mag. Vol. 2 は1836年に発刊になっているが、その中には Hooker の Icones Plantarum についての紹介があって、セン類には図が幾つあると書いてあるのみでこにも記文はないが図解はされたことになり、命名規約第44条によって有効に出版された名と認めることが出来る。

(東京都立大学理学部牧野標本館)